



答 民間サイドのまちづくりの主体として、多種多様な事業に取り組んでいくことを期待しており、設立後の初期期には安定的な収益が見込める事業が必要であり市としてもできる限り支援をする。

問 ごみ共同処理による市民への影響、持ち込みごみの受け入れ、費用など何か変わることはあるのか。

答 塩尻クリーンセンターは中継施設として存続し将来的にも市内には中継施設が必要である。ごみ減量の効果もあり一般家庭の手数料の変更は現在のところ考えていない。共同処理に移行後は、10月から3月の閑散期にラーラ松本の割引券が利用出来る。

問 境峠・神谷断層帯、牛伏寺断層、霧訪山奈良井断層などの地震発生率が上昇したとの発表を受け避難施設の充実が急がれるが地区により収容率に大きな差がある。最も高い楢川地区は3人に1人、低い広丘・高出地区では10人に1人と大きな差があるが対応はどの様に考えているか。防災備蓄倉庫の配置と装備品、民間から寄贈された貨車を利用した防災倉庫に機材のほか備蓄品の装備はできないか。

答 耐震化された建物で避難施設としての広さの確保されている民間企業に協力を求めていく。防災備蓄倉庫は避難場所となる小中学校の校庭などに18箇所、国土交通省が設置したものが小坂田公園に1箇所合計19箇所ある。防災備蓄倉庫には食品・毛布など災害時の初期に必要なものが装備されている。防災倉庫への備蓄品については早急な対応は難しい。



防災備蓄倉庫

問 給水収益の増加が見込めない中で水道事業の今後の見通しは。

答 塩尻市の水道料金は県内19市中10番目と中位にある。将来的に健全な経営を維持するために、事務の効率化、料金収納率の向上などの経営改善やシステムの効率化など維持費低減に努める。

和の会
質問者 青柳 充茂
中原輝明

持ち時間113分

塩尻の未来は明るい



◆26年まで建設断念の原因はなに時間がなかったのは、市長が平成18年の市長選で市民交流センターも体育館も、両方建てること約したことが原因だったのでは。ただ選挙に勝ちたくて言ったのか。もし、財政なども検討した上の公約だったのなら、22年度までに出来なかつた理由は何か。

答 仮にも現職。その辺はわかりました公約だ。
◆厳しい財政状況と箱物建設
問 市の広報や新聞報道等を読んでみると、塩尻の街はよほど活性化し発展していると思像されるが、実感がないと言う市民もたくさんいる。こうしたギャップが生じるのはなぜだと考えるか。税収減の傾向の中で、塩尻はなぜ箱物建設が止められないか。人も

モノも高齢化しつつある塩尻市のこれからは、税収減の中で、道路や橋や様々な公共施設、インフラの老朽化問題が一挙に噴出して来る。市民に負担をかけずにどう維持再生していくかが、今、優先するべき課題ではないか。

答 厳しい財政状況の中で、公共施設の維持と再生は大きな課題だ。実態を調査し、必要性、廃止、統合も含め検討する中で、民間活力の導入や市民等との協働による新たな仕組みも見い出すよう努める。
◆理想の田園都市像を示せ
問 塩尻の未来は明るいと云えるのか。現実には、塩尻市が目指す「ともに築く自立と創造の田園都市」に近づきつつあるというより、遠のいていくようなイメージが拭えないと言っている市民は少なくない。理想の田園都市を目指すためには地域経済を活性化することが最も重要な課題ではないか。塩尻の将来像をもっと具体的にイメージできるような地域経済活性化のためのモデルをしっかりと描くことが必要だ。環境共生循環型経済モデルというのはどうか。

答 目指す都市像に向け、おむね順調に施策の展開が図